

高学年授業改善プラン

	児童の課題	改善策
国語 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を正しく書くこと。 ・言葉の意味や使い方などを理解し、目的や意図に応じて適切な言葉を選んだり用いたりすること。 ・目的や意図に応じて、自分の考えが相手に伝わるように、構成や表現を工夫して話したり書いたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字ドリルやノートでの練習だけでなく、自主学習で書き取り練習をしたり、漢字小テストを通して自分の苦手とする字を把握したりできるよう指導を行う。さらに、日常の中で文や文章を書く際には、既習の漢字を使うことを継続して指導し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣が身に付くようにする。 ・「読むこと」の学習において、文章の中で用いられている接続語や修飾語などの言葉にはどのような使い方や効果があるのかを考えたり確認したりする。また、「話すこと」や「書くこと」の学習とも関連付けて、自分が話したり文章を書いたりするときにもノートや教科書を見返して参考にし、適切に言葉を用いることができるようにする。また、国語の授業に限らず、分からない言葉に出合ったときに、国語辞典を引くなど言葉の意味を調べる機会を日常的に設けることで、語彙力を高められるようにする。 ・構成メモの作成など、文章を書いたり話したりする前に内容の準備や検討が十分にできるように指導計画を立てる。文章構成や事例の挙げ方、図表の効果的な使い方などについて、説明的な文章で学んだこととも関連付けながら指導を行う。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ・語彙を増やしたり、漢字を正しく覚えたりすること。 ・説明的な文章を読み、自分の考えをまとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の構成を考えたり推敲したりする時間を十分にとり、自分の文章を読み返したり、友達が書いた文章を読んだりする回数を増やす。また、書き直しが比較的簡単なChromebookのドキュメントなどを活用する。 ・友達から意見をもらう際は、机の配置や体の向きに留意するなどして、十分な距離を空けて交流するよう指導する。 ・読書・学習の時間等で読書の時間を確保し、多様な語句に触れて、語彙を増やせるようにする。 ・漢字の由来について考えたり、新出漢字の多様な熟語を活用して作文したりして、漢字の意味や熟語と関連させて覚えられるような指導をする。 ・単元の終末に、自分の考えをまとめる時間を設ける。筆者の主張に対し、共感・納得した部分、疑問に思う部分を見付け、自分の経験や身近な事象をもとに理由を書くように指導する。
社会 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳や地球儀、統計、などの資料を通して、情報を適切に読み取ること。 ・社会に見られる課題を把握し、資料などを活用して考察したり、説明したりすること。 ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとすることや、より社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読み取る際の視点を示し、その資料と課題を結び付けて指導する。また、デジタル教科書や電子黒板などを積極的に活用し、視覚的にも理解しやすいように授業形態を工夫する。 ・知識・技能としてだけでなく学習を捉えるのではなく、社会的な見方（時間的・空間的・关系的）・考え方（比較・分類、関連・総合）を働かせ、学習問題をまとめたり発表したりする機会を授業の中で増やしていき、思考力、判断力、表現力等を高めるように指導する。 ・米づくりや水産業など、生活と深く結び付いている単元は、自分たちの生活との関わりから、疑問や課題を気付けるようにする。また、国土の特徴が食料生産や工業生産などの産業につながることに気付かせ、学習のつながりを関連付けながら指導する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・資料集や地図帳などの基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の特性に留意して情報を集めたり読み取ったりすることを確認し、社会的な見方（時間的・空間的・关系的）・考え方（比較・分類、関連・総合）を生かして資料を読み取るよう指導し、教科書だけでなく、資料集や本、インターネット検索など複数の資料から情報をまとめることができるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の特色や課題、関わり方などについて、考えたことを説明したり議論したりすること。 ・社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> また、デジタル教科書や電子黒板を活用してポイントを示しながら、資料から読み取ったこと、そこから考えられることを分けて指導する。 ・用語の復習を行い、人物や出来事への理解を深める。 ・ポイントや例示を示した上で、考えたことを文章で記述し、それを読み合ったり発表したりすることや、資料などを用いて説明したり、根拠や理由を明確に議論したりすることを適宜行い、思考力・表現力・判断力等の向上を図る。 ・他教科等との関連を図ることや、これまでの学習を振り返ることをしながら、多角的に考えたり社会生活との関連を考えたりしてまとめる活動を行う。自分で考える時間を十分に保証した上で、それをグループや全体で検討したりする活動を設定し、より自分事として捉え考えられるようにする。
算数 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生までに学習している整数、小数の四則演算を正しく計算すること。 ・小数のわり算を正しく計算すること。 ・三角定規、コンパス、分度器等を正しく使って作図すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で計算する機会を増やしたり、既習の計算の仕方を繰り返し丁寧に確かめたりする。 ・定着が不十分な児童には、補充のプリントを配布したり、授業の始めに数問の計算練習の機会を作ったりする。 ・特に小数で割る計算については、じっくりコースを中心（その他コースでも状況に応じて）に、筆算の手順の確認や小数点の位置の移動の確認をする。 ・定着が不十分な児童には、補充のプリントを配布したり、授業の始めに数問の計算練習の機会を作ったりする。 ・授業の中で、既習の作図の仕方の確認や、各種用具の使い方の確認を丁寧にする。 ・定着が不十分な児童には、休み時間や放課後に補習をする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・三角定規、コンパス、分度器等を正しく使って丁寧な作図すること。 ・式や記号の意味を正しく理解すること。 ・数学のよさを実感し、生活や学習に生かそうとすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、既習の作図の仕方の確認や、各種用具の使い方の確認を丁寧にする。 ・定着が不十分な児童には、休み時間や放課後に補習をする。 ・小数や分数で割る意味やかける意味を整数の計算に帰着させて考えるようにする。数直線の図や言葉の式を基に考えさせる。このような立式の根拠をテストやノートに示すように指導する。また、式や記号の正しい使い方を場を捉えて学年全体で指導する。 ・振り返りは学習内容のまとめりごとに書くようにする。より価値があり、具体的な振り返りが書けるように、振り返りを書く際に観点を示したり、よい振り返りについて紹介したりする。
理科 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・条件制御について理解し、それを基に実験・観察の方法を考えること。 ・科学的な用語、基本的な知識などの定着。 ・実験や観察の結果を基に考察し、自分の考えを自分なりの言葉で表現すること。 ・学習したことを日常生活の事象に活用して考えること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたいことに関わる条件のみを変えることを繰り返し指導する。 ・変える条件と変えない条件が一目で分かるようにするために、マトリックスなどの思考ツールを活用する。 ・学習事項や関連した既習内容を復習する時間を取り、理解の定着を図る。 ・結果と考察、結論の違いを明示して指導するなど、単元の学習の流れを児童と共通理解して授業を進める。 ・クラスで結果を共有したあと、考察や結論を考えさせる前に問題を再度確認し、それに対する答えとなるように書くことを繰り返し指導する。 ・教科書の単元末に設定されている「学んだことを生かそう」において、学習した内容の中でも具体的にどのようなことと関連付けて考えればよいのかをクラス全体で考えたり、問題で設定されている場面以外でもどのような場面で活用できるかを出し合ったりする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・理科室の利用や実験や観察の器具の使用における感染防止対策。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで1つ、可能であれば一人1つなど、多くの児童による器具の共有をなるべく避ける。(そのことによって、多くの児童が自分で操作する機会を得られ、学力向上につながる事が期待できる。) ・保護メガネ、フェイスシールドを適切に使用する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などで用いる様々な器具に関する基本的な技能を身に付け、その意味を理解すること。 ・観察、実験などの結果を基に、多面的に考え、より妥当な考えをつくりだすこと。 ・理科室の利用や実験や観察の器具の使用における感染防止対策。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人が器具を操作する機会を設けるとともに、使い方を確認する際や結果をまとめる際などに、実際に行う(行った)器具の操作にはどのような意味があるのかを考えさせる。 ・実験前には、課題に対する予想を立てさせ、その際、自然現象や過去に行った関連する観察や実験を想起させる。また、結果を基に考察する際、予想や仮説、自分の経験や知識などを関連付けて考察するように促す。 ・可能な限りペア、またな個人で観察・実験を行う。また、保護メガネ、フェイスシールドを適切に使用する。(そのことによって、多くの児童が自分で操作する機会を得られ、学力向上につながる事が期待できる。)
音楽 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞活動において、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えながら楽曲を味わうこと。 ・歌や演奏活動において、自分の思いや意図をもち、それにふさわしい表現をするために必要な技能を身に付け、人前での表現発表に慣れること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感じ取ったことを起点に、その理由を、音楽を形づくっている要素の働きとの繋がりに気付けるような発問や、調べ考える学習を多く取り入れる。また、音楽を言葉で表すことに慣れるため、感じ取ったことや気付いたことをグループで伝え合うなどの活動を充実させる。またその際には、一定の距離を保ち感染症を予防する。 ・音楽に対して「こんな風に演奏したい」という自分の思いや意図をもてるよう、デジタル教科書や楽譜に書き込めるプリントなどを活用して、楽譜と音との関連を意識できるようにする。その曲のよさを感じ取り、表現活動につなげていくようにする。思いを実現し、表現するための知識や技能を身に付けた上で、自信をもって演奏できるようにする。少人数のグループ発表の機会を増やし、人前で表現することにも慣れていく。活動に当たっては、感染症防止のためパーテーションを利用し、間隔を開け、十分に換気された部屋で行う。
図工 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に愛着をもち、素材や用具に主体的に関わりながら活動すること。 ・用具や材料を安全で適切に使うこと。 ・自他の作品のよさや面白さを認め合い、鑑賞することの楽しさを味わうこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が作品や素材に愛着や意図をもつことができるよう、児童自身が形や色を選択できる機会を多く設ける。 ・素材のよさや面白さを全体で共有する場を設けたり、そのよさや面白さを生かしながら制作する児童を意図的に取り上げ、価値付けたりする。 ・児童自身の作品に自己の思考の変化や広がりを感じられるように、毎時間振り返りを行ったり、ある程度の題材時間を確保したりする。 ・用具や材料は児童が使いやすいように手入れや準備を行い、正しい使い方をしっかりと全体に指導する。具体的な使い方についてはそれぞれの児童の熟練の程度によって個別に指導していく。道具の共用はできるだけ避け、必要な場合は消毒しながら使う。 ・題材の面白さを全体で共有するだけでなく、個々で作品について語り合う場を題材ごとに設ける。 ・ICTを活用し、日頃から友達作品を見ることができるようにする。
家庭 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・生活体験が乏しく、家庭生活への関心が低いこと。 ・生活の中から問題を見いだすことができないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を工夫して、問題解決的な学習の質を高める。自分の家庭生活を見つめて題材に関する問題を見いだして課題を設定し、目的意識をもって学習に取り組むことができるようにする。実践的・体験的な活動を重視した活動を通して、必要な基礎的・基本的知識及び技能の定着を図る。身に付けた知識・

		<p>技能を活用して計画を工夫し、実践活動を行う。更に、実践を評価・改善して、家庭・地域での次の実践につなげ、継続的な実践を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用して対話的な学びの実現を図る。考えを交流し合うことで多様な解決方法に気付き、自分の生活と関連付けながら家庭生活を工夫できるようにする。 ・「家庭科だより」を発行し、学習のねらいや内容を知らせ、家族が学習の意義や内容を理解できるようにして協力を得る。また、家庭実践においては、家庭からの一言を依頼し、児童が家族の役に立つ喜びを実感し、実践意欲が高まるようにする。 ・サポート松仙の協力を得て、実技面で遅れがちな児童への支援や安全対策を充実させる。 ・「調理の基礎」については、実施時期や方法を工夫する。
体育 5年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識があり、運動に消極的な児童がいること。 ・自己のめあてを意識して課題を設定し、課題解決に向けて思考・判断をするとともに、友達に伝える力を養うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心が高まるような単元の導入の工夫をすることや単元の流れを理解し、学習の見通しをもつことで体を動かして楽しく運動できるようにする。運動を通して、自己の課題を解決したり、友達と協力したりすることで、体を動かす楽しさや喜びを味わえるようにする。練習の場や練習の方法を工夫することによって、運動が苦手な児童の支援をしていく。 ・ワークシートの活用をしたり、友達と教え合ったりしながら、自己の課題を明確にし、振り返りでは視点を設けることで、学習課題に対して解決するための思考ができるような環境作りを授業の中で整えていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識をもっている領域の運動に対して、意欲的に取り組んだり、自分にできそうなことに挑戦したりすること。 ・自己のめあてや課題を設定し、それに合う練習の場や方法を選ぶこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・その領域の主たる運動につながる楽しい補助運動を単元や授業の始めに設定したり、どのような練習をすればできるようになるのかというポイントを明確に示したり、スモールステップで練習できる場を工夫したりする。 ・学習カードに、毎時間自己のめあてや課題を書かせ、それが適切であるかどうかを必要に応じて助言する。多様な練習の場や方法を準備するとともに、どのようなめあてや課題を設定した場合にその場や方法が有効であるのかを明確に示す。
外国語 5・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要が捉えられること。 ・自分や相手のこと及び身の回りのものに関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合うこと。 ・自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な物を表す語句や表現を繰り返し聞いたり、質問に答えたりする活動を取り入れる。 ・教員のスモールトークを聞き、話の概要をつかませる。 ・既習事項を生かして話すスモールトークを取り入れる。 ・ターゲットフレーズを用いて話す活動では、自分の思いや考えを英語で伝える活動を取り入れる。 ・ALTを活用し、やり取りや発表をするときのよい見本(モデル)を見せる。 ・ALTと1対1のパフォーマンステストをそれぞれの単元末に行う。自分で考えた分を伝える時間とやり取りをする時間のどちらも確保し、経験を積ませる。 ・書く活動を取り入れ、その都度気を付けるところやポイントなど意識するところを継続的に指導していく。 ・フラッシュカードやワークシートに文字を表記し、文字を意識させる。 ・アルファベット大文字と小文字は帯時間で継続して取り組む。 ・4線を意識しながら文字を書かせる。